

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成30年11月22日(2018.11.22)

【公表番号】特表2017-531043(P2017-531043A)

【公表日】平成29年10月19日(2017.10.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-040

【出願番号】特願2017-539524(P2017-539524)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/341	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/08	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/20	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/341	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 P	25/08	
A 6 1 P	25/00	1 0 1
A 6 1 P	25/20	
A 6 1 K	45/00	

【手続補正書】

【提出日】平成30年10月9日(2018.10.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

治療有効量のA19-144またはA2-73、および治療有効量の少なくとも1つのAEDを含む剤形。

【請求項2】

前記治療有効量のA19-144が約0.5~約20mgである、請求項1に記載の剤形。

【請求項3】

前記少なくとも1つのAEDが、アセタゾラミド、ベンゾジアゼピン、カルバマゼピン、クロルジアゼポキシド、クロバザム、副腎皮質ステロイド(cortisoloids)、エスリカルバゼピン、エスリカルバゼピンアセテート、エトスクシミド、エトイン、フェルバメート、ラコサミド、ラモトリギン、レベチラセタム、メフェニトイイン(mephentyoin)、メフォバルビタール(mephobarbitol)、メトスクリシミド(methsuxamide)、オクスカルバゼピン、パラメタジオン、ペランパネル、フェナセミド、フェノバルビタール；フェンスクシミド(phensuxamide)；フェニトイイン、プレガバリン、プリミドン、プロガビド、ルフィナミド、スチリペントール、スルチアム、チアガビン、トピラマート、トリメタジオン(tremethadione)、バルプロエート、ビガバトリン、ゾニサミド、ドネペジル、メマンチン、ガランタミンまたはリバスチグミンからなる群から選択される、請求項1に記載の剤形。

**【請求項 4】**

前記 A E D が M E D 未満量で存在する、請求項 3 に記載の剤形。

**【請求項 5】**

前記剤形が単位剤形である、請求項 1 に記載の剤形。

**【請求項 6】**

処置を必要とする対象においててんかんを処置するための組み合わせ物であって、治療有効量の A E D および治療有効量の A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 を含み、前記 A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 が前記 A E D と併せて投与されることを特徴とする、組み合わせ物。

**【請求項 7】**

前記治療有効量の前記 A E D が M E D 未満量である、請求項 6 に記載の組み合わせ物。

**【請求項 8】**

治療有効量の A E D と併せて前記 A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 が共に適時に投与されることを特徴とする、請求項 6 に記載の組み合わせ物。

**【請求項 9】**

治療有効量の A E D と併せて前記 A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 が協調的に投与されることを特徴とする、請求項 6 に記載の組み合わせ物。

**【請求項 10】**

処置を必要とする対象においててんかんを処置するための組成物であって、治療有効量の A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 を含み、前記組成物が治療有効量の A E D と併せて投与されることを特徴とする、組成物。

**【請求項 11】**

処置を必要とする対象においててんかんを処置するための組成物であって、治療有効量の A E D を含み、前記組成物が治療有効量の A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 と併せて投与されることを特徴とする、組成物。

**【手続補正 2】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 1】

概して、本発明の組成物は、単位投与量あたり、薬学的に許容される担体中に A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 を約 1 ~ 約 1 0 0 m g 、およびドネペジルまたは A E D を 0 . 5 ~ 5 m g 含む単位剤形に調剤される。

本発明は、例えば、以下の項目を提供する。

(項目 1)

治療有効量の A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 、および治療有効量の少なくとも 1 つの A E D を含む剤形。

(項目 2)

前記抗発作剤 A 1 9 - 1 4 4 または A 2 - 7 3 が約 0 . 5 ~ 約 2 0 m g である、項目 1 に記載の剤形。

(項目 3)

前記少なくとも 1 つの A E D が、アセタゾラミド、ベンゾジアゼピン、カルバマゼピン、クロルジアゼポキシド、クロバザム、副腎皮質ステロイド (c o r t i o s t e r o i d s ) 、エスリカルバゼピン、エスリカルバゼピンアセテート、エトスクシミド、エトトイント、フェルバメート、ラコサミド、ラモトリギン、レベチラセタム、メフェニトイント (m e p h y n t o i n ) 、メフォバルビタール (m e p h o b a r b i t o l ) 、メトスクリシミド (m e t h s u x a m i d e ) 、オクスカルバゼピン、パラメタジオン、ペランパネル、フェナセミド、フェノバルビタール；フェンスクシミド (p h e n s u x a m i d e ) ；フェニトイント、プレガバリン、プリミドン、プロガビド、ルフィナミド、スチリ

ペントール、スルチアム、チアガビン、トピラマート、トリメタジオン (tremethadione)、バルプロエート、ビガバトリン、ゾニサミド、ドネペジル、メマンチン、ガランタミンまたはリバスチグミンからなる群から選択される、項目 1 に記載の剤形。  
(項目 4)

前記 AED が MED 未満量で存在する、項目 3 に記載の剤形。

(項目 5)

前記剤形が単位剤形である、項目 1 に記載の剤形。

(項目 6)

処置を必要とする対象を処置する方法であって、治療有効量の AED と併せて、治療有効量の A19-144 または A2-73 を投与することを含む、方法。

(項目 7)

前記治療有効量の前記 AED が MED 未満量である、項目 6 に記載の方法。

(項目 8)

治療有効量の AED と併せて A19-144 または A2-73 を投与することが共に適時である、項目 6 に記載の方法。

(項目 9)

治療有効量の AED と併せて A19-144 または A2-73 を投与することが協調的である、項目 6 に記載の方法。